

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文省略

【ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド 訳者 上杉 周作、関 美和『FACTFULNESS』

(日経B P社)の文章による】

注1：男性と女性の権利を平等にしようと考えている人。

注2：筆者は本文の中で、生活水準をレベル分けしており、レベル1～レベル4は数字が大きくなるにつれて生活水準のレベルが高くなることを示している。

問一 傍線の部分㉔㉕のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 傍線の部分㉑とありますが、なぜ大げさに語ってしまうのか。その理由を五十字程度で書きなさい。

問三 傍線の部分㉒について、ここからわかる筆者の主張として、最も適当なものを次の選択肢ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 問題が解決されていく中で、現状を人々に説明することができればより多くの問題を解決することができるということ。

イ 問題を解決していくためには、活動家たちの考えを人々は理解する必要がある、さまざまな活動家間の連携が必要であるということ。

ウ 問題を解決するためには、一部の活動家だけで問題解決ができるためのシステムを構築していく必要があるということ。

エ 現状の問題を解決していくためには、活動家による問題解決のための行動を精査し一つにまとめていく必要があるということ。

問四 傍線の部分㉓の「トンカチ」と「くぎ」は本文中のどの言葉に置き換えることができるか。それぞれ「トンカチ」を四字、「くぎ」を二字で抜き出さなさい。

問五 傍線の部分㉔の根拠となる一文を文中より二箇所、(一)二十五字以内、(二)三十五字以内で抜き出し、それぞれはじめの五字を書きなさい。

問六 筆者は本文を通して、世界の深刻な問題を解決するためにどうしていく必要があると考えていますか。次の文の空欄に入る適当な言葉を、四十五字以内で書きなさい。

問題を解決していくためには、() () 必要があるということ。

二、次の文章は榎野道流ふしのみちるの小説「おじさんと俺」の一節である。「俺」は仕事を辞めて街を歩いているとき、突然、格好いい「おじさん」に声をかけられ、共にあんみつを食べることになった。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

本文省略

問一 傍線の部分①～④の漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。

問二 傍線の部分①とありますが、「俺」がすぐに返事をしない理由を五十字以内で書きなさい。

問三

A	B
---	---

に入る言葉としてふさわしいものを、次の選択肢ア～エの中からそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。

ア 元氣出せ

イ 辞めるなんて考えなしだ

ウ 早く寝て忘れろ

エ 向いてなかったんだ

問四 傍線の部分②とありますが、この紙袋を持ち歩く「俺」の気持ちを四十字以内で説明しなさい。

問五 傍線の部分③とありますが、なぜですか。理由を説明したものととして最も適当なものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 上司の、自分を会社に引き留める言葉は、自分のためというより上司自身のための言葉のように感じていたが、「おじさん」の言葉は「俺」に向けた言葉であったから。

イ 自分を正しく評価してくれない上司には反発心が起こり素直に聞けないが、自分をほめてくれる「おじさん」の話は耳に心地よくすんなりと入ってくるから。

ウ 上司の言葉や態度は納得できなかつたため自分自身の心に届かなかつたが、「おじさん」の前向きな言葉には説得力があり心のこもつた言葉であつたから。

エ 上司は自分を一方的に叱りつけるばかりであつたため素直に聞く気になれず、「おじさん」は自分の話に耳を傾け親身になつてくれたことで素直に聞けたから。

問六 人間が執着していたものと別れることができるのはどのようなときか。本文に即して五十字以内で書きなさい。

三、次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

大蔵卿ばかり耳とき人はなし。まことに蚊の睫の落つる（A）をも聞きつけたまひつべうこそありしか。職の御曹司の西表に住みしころ、大殿の新中将宿直にて、物など言ひしに、そばにある人の、「この中将に、扇の絵の事言へ」とささめけば、「今かの君の立ちたまひなむにを」と、いとみそかに言ひ入るるを、その人だにえ聞きつけで、「何とか、何とか」と、①耳をかたがけ来るに、遠くイみて、「②にくし。さのたまはば、今日は立たじ」と③のたまひしこそ、いかで聞きつけたまふらむと、あさましかりしか。

【注】

大蔵卿：大蔵省の長官で藤原正光

聞きつけたまひつべうこそありしか：お聞きつけになりそうであった

職：役職の名

御曹司：お部屋

新中将：藤原成信

宿直：宿泊して勤務・警備すること

かの君：大蔵卿

みそかに：ひそかに

え聞きつけで：聞き取ることができないで

さのたまふ：そうおっしゃる

立たじ：立つまい

いかで：どうして

あさましかり：あきれる

【『枕草子』第二七五の文章による】

- 問一 傍線の部分ア・イを現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。
- 問二 (A)に入れるのに適当な漢字一字を自分で考えて書きなさい。
- 問三 本文中で「」がついていない筆者の心中文の部分を探し、はじめと終わりの二字を抜き出しなさい。(句読点を含む)
- 問四 傍線の部分①・③の主語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。
- ア 大蔵卿 イ 新中将 ウ そばにある人 エ 筆者
- 問五 傍線の部分②とありますが、その理由を説明しなさい。
- 問六 二重傍線の部分はどのような人のことを言うのか。本文に即して、三十字以内で書きなさい。
- 問七 この古文『枕草子』の作者名を漢字で答えなさい。